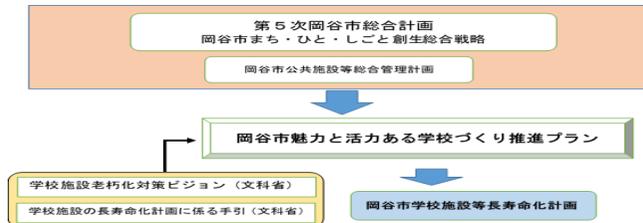


1 計画策定の背景、目的等

- (1) 背景  
 ○本市の学校施設は、小中学校合わせて69棟のうち、約8割が建築後30年を経過しており、老朽化対策が喫緊の課題となっている。
- (2) 目的  
 ○学校施設の適正な維持管理及び安全・安心の学習環境整備  
 ○学校施設の効率的な維持保全のための中長期的な計画の策定  
 ○少子化を見据えた、小中学校の適正配置、適正規模のあり方
- (3) 計画の位置づけ

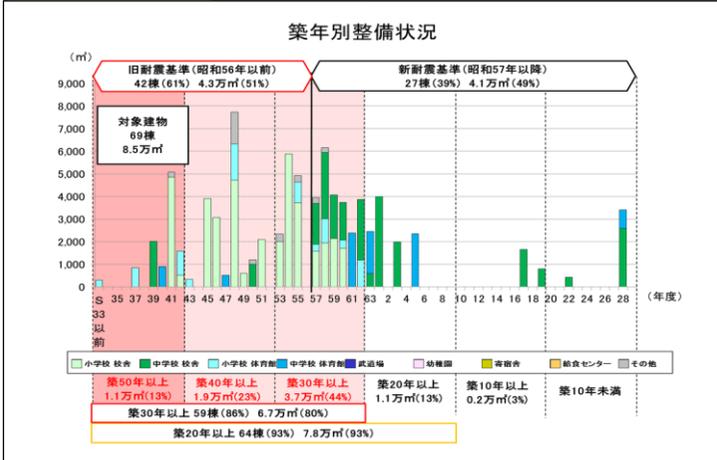


- (4) 計画期間(2019(平成31)年度～2028年度)  
 ○第5次岡谷市総合計画と同様に10年間を計画期間とし、5年間の実施計画を策定する。
- (5) 対象施設  
 ○学校校舎(付属棟等含む)・体育館・給食室・プール及び教員住宅

2 学校施設の目指すべき姿

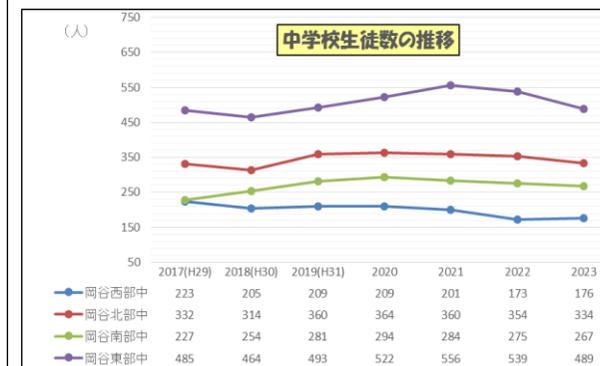
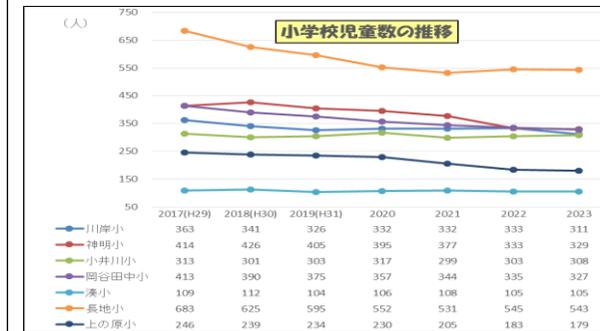
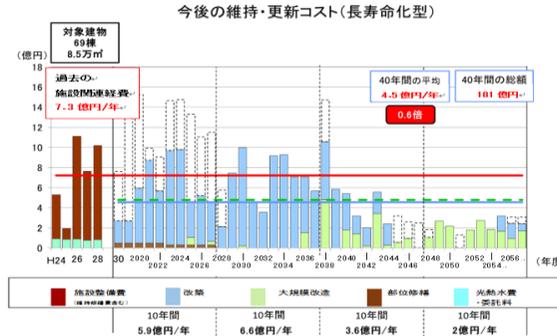
- (1) 誰もが安全で快適に利用できる施設づくり  
 (2) 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境整備  
 (3) 環境負荷の少ない学校施設づくりと学校施設を利用した環境教育の推進  
 (4) 災害時の拠点として機能する施設整備  
 (5) 適正な学校施設規模による整備

3 学校施設の実態



4 学校施設整備の基本的な方針

- (1) 学校施設改修等の基本方針  
 ○基本方針1: 資産総量の適正化  
 ○基本方針2: 長寿命化の推進  
 ○基本方針3: 更新費用等の財源確保
- (2) 学校施設の規模・配置計画等の方針  
 ① 将来人口推計から見る児童生徒数の推移と適正配置  
 ② 学校施設規模と児童生徒数の将来推計に基づく通学区域の設定  
 ③ 小中一貫教育の導入及び他施設との統合の可能性



5 学校施設整備の実実施計画

- (1) 実施計画の基本的な考え方  
 ○児童生徒数の推移と適正配置、通学区域の設定や小中一貫教育の課題や検証を踏まえ、本プランの計画期間の前期5か年においては、現在の小学校7校、中学校4校を維持し、5か年の学校施設整備の実施計画を策定する。  
 ○施設整備にあたっては、教育効果を高めるため、1校100人以上、1クラス10人以上の学校規模を目安として適正な配置を検討する。  
 ○児童生徒数を踏まえた減築、集約化や他の施設との複合化、余裕教室の有効活用を検討する。  
 ○財政状況の見通しや実効性の検証を行なうとともに、児童生徒数の状況、教育課題等への対応なども踏まえ随時見直しを行いながら、老朽化対策を推進する。



- ① 施設改修全般  
 ・全体的な劣化を改善する大規模改修(長寿命化改修)を基本とする。  
 ・部分的に緊急性のある劣化については、優先度を判断し安全性を確保する。
- ② 校舎(附属棟、教育委員会作業所を含む)  
 ・建物の耐久性に大きな影響を与える屋上防水や外壁補修による予防保全を基本とする。  
 ・長寿命化及び学校施設に求められる質的な整備を目的とする大規模改修を基本とする。  
 ・上記により、長寿命化とライフサイクルコストの縮減を図り、安全で快適に利用できる期間延長に努める。
- ③ 安全で快適な学習環境整備  
 ・安全で快適な学習環境及び防災機能強化のため、生活環境を確保するサンタリー等(トイレ給排水設備)、避難施設の機能強化としての空調設備の整備を重点的に実施する。
- ④ 体育館  
 ・耐震改修及び非構造部材脱落防止工事が完了していることから、定期的な屋根外壁の防水工事による長寿命化に努める。
- ⑤ 給食室  
 ・施設改修全般と同様に長寿命化に努める。
- ⑥ プール  
 ・計画的な予防保全に努めるとともに、大規模な改修が必要になった場合を想定し、市民プールの活用やプール施設の統合など共同利用を含め学校プールのあり方を研究、検討する。
- ⑦ 教員住宅  
 ・今後、維持管理を継続する間下教員住宅については、学校施設と同様に予防保全による長寿命化を計画的に推進する。